

安全データシート (SDS)

作成年月日 2001年5月29日
改訂年月日 2016年8月10日

1. 製品名及び会社情報

製品名	油固めてあとしまつ
会社名	株式会社リンレイ
住所	〒104-0061 東京都中央区銀座4丁目10番13号
担当部門	秦野工場 生産技術課
電話番号	0463-81-5455
FAX 番号	0463-82-4700
緊急連絡先	同上
推奨用途及び使用上の制限	(推奨用途) 食用油用廃油処理剤 (使用上の制限) 医療用

2. 危険有害性の要約

GHS 分類
分類基準に該当しない

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

成分名/化学名	含有量 (wt%)	CAS No.	化審法	安全衛生法	PRTR 法
天然植物油脂肪酸	80-90	非公開	—	非該当	非該当
その他	10-20	非公開	—	非該当	非該当

4. 応急措置

吸入した場合

- ・ 空気の清浄な場所に移し、安静にする。
- ・ 呼吸が不規則か、止まっている場合には人工呼吸を行う。
- ・ 必要であれば医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合

- ・ 大量の水及び石けん又は皮膚用洗剤を用いて十分に洗い落とす。
- ・ 外観に変化がみられたり、痛みがある場合には医師の診断を受ける。

目に入った場合

- ・ 直ちに清浄な流水で15分以上洗う。まぶたの裏まで完全に洗う。
- ・ コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続ける。
- ・ 直ちに眼科医の診断を受ける。

飲み込んだ場合

- ・ 被災者に意識がある場合、水をコップ1~2杯飲ませ、吐かせない。口の中を水でよく洗う。
- ・ 被災者に意識がない場合、口から何も与えてはならない。また、吐かせてもならない。
- ・ 安静にして、直ちに医師の診断を受ける。

急性及び遅発性の症状の最も重要な特徴および症状

- ・ 情報なし。

応急措置をする者の保護

- ・ 救助者は保護手袋などの保護具を着用する。

医師に対する特別な注意事項

- ・ 症状は遅れて発現することがある。

- ・ 暴露に対する治療は、患者の症状に応じて臨床的処置を行う。

5. 火災時の措置

消火剤	二酸化炭素、粉末消火剤、泡消火剤、砂。
使ってはならない消火剤	情報なし
特有の危険有害性	情報なし
特有の消火方法	消火作業は、できる限り風上から行う。 消火のための放水により、製品または化学物質が河川や下水に流出しないよう適切な措置を行う。
消火を行う物の保護	消火作業の際は、必要に応じて適切な保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・ 作業の際には適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン)を着用する。

環境に対する注意事項

- ・ 河川などへ排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
- ・ 地域の規則に従う。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い

< 技術的対策、安全取り扱い注意事項 >

- ・ 換気のよい場所で取り扱う。
- ・ 保護具(手袋、エプロン)を着用する。
- ・ 周囲に人やペットがいないこと確認してから使用する。

< 接触回避 >

- ・ 強アルカリ性物質。

< 衛生対策 >

- ・ 取扱い後は、石鹼と水で手をよく洗う。

保管

< 保管条件 >

- ・ 日光の直射を避ける。
- ・ 通風のよいところに保管する。
- ・ 火気、熱源から遠ざけて保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度・許容濃度

設定されていない。

設備対策

屋内作業の場合、局所排気装置等により作業者が暴露から避けられる設備とすること。

保護具

呼吸器の保護具	通常の使用においては必要ないが、粉末を吸い込まないよう気をつける。
手の保護具	通常の使用においては必要ないが、皮膚の弱い方は化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。
眼の保護具	通常の使用においては必要ないが、粉末が眼に入らないよう気をつける。
皮膚および身体の保護	長袖衣の着用を推奨する。

9. 物理的及び化学的性質

外観	固体(薄片状)
臭い	わずかに特異な臭い
pH	データなし
融点・凝固点	70-80°C
沸点	データなし
引火点	294°C(クリーブランド開放式)
燃焼又は爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
比重(相対密度)	データなし
溶解度 水溶解性	不溶
溶媒溶解性	データなし
n-オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	強アルカリ性物質と反応して、塩を生成する。
化学的安定性	一般環境下で安定
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	40°Cを超える環境、および0°C以下の環境。
混合危険物質	強アルカリ性物質
危険有害な分解生成物	情報なし

11. 有害性情報

急性毒性	経口	混合物判定理論経口 LD50 の推定値 ATEmix が 20mg/kg であるため、区分外とした。
	経皮	データ不足のため分類できない。
	吸入	データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性・刺激性		粉塵が過剰に発生した場合、皮膚に不快な刺激を与えるとの情報がある。
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性		密閉された空間において粉塵が過剰に存在すると可視性を低減し、眼に不快な刺激が発生するとの情報がある。
呼吸器感受性		データ不足のため分類できない。
皮膚感受性		データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性		データ不足のため分類できない。
発がん性		該当しない。
生殖毒性		データ不足のため分類できない。
特定標的臓器・単回暴露		データ不足のため分類できない。
特定標的臓器・反復暴露		データ不足のため分類できない。
吸引性呼吸器有害性		粉塵が過剰に発生した場合、鼻腔内に粉塵が蓄積し不快な刺激を与えるとの情報がある。直ちに化学的又は機械的方法によって粉塵を除去し洗浄を行う。
水生環境有害性・急性		データ不足のため分類できない。
水生環境有害性・慢性		データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性	魚毒性:急性魚毒性 LC50>100mg/L その他:バクテリア毒性 EC50>100mg/L
残留性・分解性	良分解性
生体蓄積性	データなし
BOD	データなし
COD _{Mn}	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし。なお、本製品はモントリオール議定書にリストアップされた規制対象物質を含まない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

- ・ 廃液等の廃棄物は許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理する。
- ・ 容器、機器装置等を洗浄した排水などは、地面や排水溝へそのまま流さない。
- ・ 排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても廃棄物の処理及び清掃に関する法律および関係する法規に従って処理を行うか、委託する。
- ・ 地域の規則に従う。

汚染容器及び包装

- ・ 容器等の廃棄物は許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理する。
- ・ 地域の規則に従う。

14. 輸送上の注意

国際規制	国連番号	非該当
	品名(国連輸送名)	非該当
	国連分類	非該当
	容器等級	非該当
	海洋汚染物質	非該当
	国内規制	陸上輸送：消防法、労働安全衛生法等に定められている輸送方法に従う。
	海上輸送：船舶安全法の定めに従う。	
	航空輸送：航空法の定めに従う。	

15. 適用法令

国内適用法	労働安全衛生法	非該当
	化審法	非該当
	PRTR 法	非該当
	毒物及び劇物取締法	非該当
	消防法	指定可燃物(可燃性固体類)(3000kg)
	高压ガス保安法	非該当
	火薬類取締法	非該当
	船舶安全法	非該当
	航空法	非該当

16. その他の情報（引用文献等）

- ・ 化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS) 改訂3版（国際連合）
- ・ GHS 対応 化管法・安衛法におけるラベル表示・SDS 提供制度（厚生労働省）
- ・ 化学物質管理データシート（神奈川労務安全衛生協会）
- ・ ライン課長・職長のための化学物質管理（中央労働災害防止協会）

（注意）このデータシートは製品に関する情報提供を目的としたものであり、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。